学びスクエア　NIE 考えるいま・未来

NIE Newspaper in Education

講師も生徒から学ぶ授業

新学習指導要領が求める「主体的・対話的で深い学び」とＮＩＥの親和性の高さに触れ、新聞が役立つにちがいないとＰＲすることがあります。主にインタビュー記事や投稿記事を対象として、語り手や投稿の筆者と、読み手が心の中で「対話」することをイメージした提案です。

「対話」の重要性は、ＮＩＥ活動の一つである「出張（出前）授業」の現場でも実感させられることがあります。出張授業では、新聞社の社員が講師として学校に出向きます。日常的に子どもたちと接する先生の授業とは異なり、大げさに言えば「一期一会」。全力を傾けるものの、「その場かぎりの一過性イベント」で終わってしまう難しさと背中あわせです。それだけに、児童や生徒との間に「一期一会」の「対話」が成立したときは強く印象に残ります。

今年のはじめに港区立港南中学校で「職業講話」を担当した時のことです。２度目の緊急事態宣言下、オンラインで実施する予定でしたが、通信環境が心配だったため、質疑応答を書面でかわす形式に切り替えました。

「働くうえで大切なことは何ですか」「働く意義は何ですか」。寄せられた質問に一つひとつ答えたのですが、後日、届いた感想に思わずうなってしまいました。

「自分の人生を充実させるとともに、ほかの人の人生も充実させる手助けをしているのではないか」「いろいろな人と協力して社会をささえること」――。働くことの大切さや意義について深い洞察力と的確さを感じさせるものでした。

ほかの人の人生も充実させる手助けができているとすれば、いち職業人として「もって瞑すべし」かもしれませんが、恥ずかしながらこれまで意識することすらありませんでした。出張授業では講師も学び、教えを受ける好例です。

© 朝日新聞社　無断複製転載を禁じます。
すべての内容は日本の著作権法並びに国際条約により保護されています。